宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像会
〒811-35　福岡県宗像郡玄海町
電話　0940－62－1311代
定価　一年送料共　1000円

夏越大祓神事斎行

―猛暑の中、多くの参列者集う―

連日の猛暑に、「水さへあれば今年は豊作だ」といふ期待の雨も降る気配はなく、各地で節水・断水が報じられてゐる。

三十数年もまへのことだが、農家の水争ひの現場に通りかかったことがあった。小川の真ん中に石を据ゑ、その石の向きによって左右の水路へ乗る水の配分が調整されるといふ昔ながらの方式で、水利関係者立合ひの下で定められた石の向きは勝手に変へることができない約束であったが、深夜ひそかにその石を動かし、我が田に水を引かうとする者があって見咎められ激しい口論となったが、その間も石を踏んでゐて元通りにさせようとしない男の甲へコブシ大の石が投げつけられ、呻きながらも踏ん張ってゐる阿修羅のやうな表情と、水利を染める血の色を月明かりに見たのであった。

まだ米作りが農家にとってそれほど重要だった時代の一光景であった。

○

筆者も四反五畝の田圃を作り、小規模神社に仕へるわが家の生計を補ってゐたから、それなりに農民の気持ちを理解することはできたし、その心理には欲得だけでなく、育ちつつある稲を枯死させたくないといふ稲そのものへの愛着もあって、水泥棒と呼ばれてもさうしないではゐられないほど水当たりの悪い条件の田を持つ者の執念でもあった。

炎暑に豊作を祈りながら

そんな氏子たちに接してゐると、日供祭のたびに祈雨祭をおこなはずにはゐられなかったし、水利関係者に効果的な水の時間配分を提案して、順番と面積による取水時間表のガリ版刷りを作って配ったりもした。

しかし、その後の高度経済成長期に農家の兼業がふえ、農外収入への依存度がたかまって、稲作への執着を忘れたかのやうに早魃の年でも被害申請をしていくらかの補償金をもらふことに馴れてしまひ、神職もまたひたすら天地に祈らずにはをれないほどの痛みを覚えず、備蓄を怠った政府の昨年のうろたへかたと、われ先にと国産米を買ひ漁った国民の醜態ぶりは、まさに平成の米騒動といはれるほど目に余るものがあった。

米の緊急輸入は、宣伝されてゐたほど良質のカリフォルニア米などが入らず、大量のタイ米輸入を余儀なくされたが、そのためにタイの国内では米価が急騰して低所得者の生活苦を深刻にし、タイから安く米を輸入してゐたアフリカ諸国にも影響が及んでゐることを自覚してゐる国民は少なく、日本人の味覚に合はないと嫌はれたタイ米は八月以降に六六万トンも持ち越される見込みで、政府も小売業者もその処分に困ってゐるといった状態は、もはや国際的罪悪といふほかはない。

「神宮式年遷宮の年に凶作に見舞はれたといふことは、稲作への信仰を失ひ飽食に馴れた国民への神の厳しい啓示ではなかったらうか」と元山口県農業試験場長は過日の山口県神道史研究会の総会で語ったが、神職の一員として身の置きどころもない心地であった。

○

宮沢政権以来の新農政への構想は、その後も十分論議されてゐるとは思へず、農地の集約化による経営規模の拡大とか、中堅農家の育成による新しい農業への取り組みとかは絵に画いた餅のやうなものである。日本の立地条件からは規模の拡大といっても知れたもので、それが輸入米に対抗し得るほどのコスト引き下げにつながるとはとても思へないし、農業への誇りと自信を喪失させてしまって俄かに中堅農家が育つ筈もない。

仮に一部の地域でそれを進めたとしても、村や町に僅かの農家しかゐなくなったとしたら、農業がこれまで果してきた役割は縮小され、農業のもつ社会的・文化的意義も失はれていくだらう。

○

わが国の農業に対する思想は極めて貧困で、生産性と経済性だけを追求する政策はすでに硬直化してゐる。たとへ兼業でも小規模農家であってもよい、一戸でも多くの農家が存続していくことが、この国を守る基盤として重要なのであり、もういちど自然と人間との関係を見直す営みとして、人間性不在の農政から脱皮しなければならないのである。

そのことに神職としてどう関りをもつかといふことを模索するために、今年山口県下の二会場で「ふるさと賛歌―コメの文化を考へる」といふ催しを試みた。ふるさとをテーマにした音楽を奏でるピアニストと、ふるさとの風景を作品化し続ける版画家の協力を得ながら、日本の文化としてのコメの問題を語ったのであった。

〔神社新報〕

猛暑と日照りが続き、各地で水不足が心配される今年の夏であるが、当大社に於て七月三十一日、夏越大祓神事が古儀に則り厳かに斎行された。

この「大祓」の儀式は、中世の頃神祇官の命により、全国の神社の宮司が朝廷の名代となり、日本中隈なく災難がないように行ったことに由来するもので、千年を越える伝統を持ち、当大社では毎年、陽暦の七月と十二月の晦日の年二回執り行っている。

祭典当日、早朝より多数の氏子総代、協力会の皆様の奉仕により大茅輪の奉製が行われ、正午前には新緑鮮やかな大茅輪が神門に設けられた。又その前には、全国各地から寄せられた紅白の人形が収められた唐櫃と、切麻、祓物、大麻を据えた案が設置された。

定刻午後五時、夕方とはいえ厳しい暑さの中、約三百名の参列者のもと祭典は斎行され、太田権宮司が大祓詞を宣読し、次に参列者全員に渡された切麻にて、身体を清め、祓物といわれる白い布に各自息をふきかけながら切り裂き罪穢を祓い退けた。

次に、大麻所役を先頭に養父宮司以下祭員、参列者が古歌を奉唱しつつ神門の大茅輪を先づ左から廻り、次に右に廻り、更に左に廻った。古来より茅の輪を三度潜る事により邪気、災難を祓い去り、暑気にめげず健全な生活を送れると伝承されている。

引き続き本殿へと参進し、夏越祭を斎行。養父宮司が国家皇室の安泰と繁栄、又氏子崇敬者と全国各地より人形を送られた方々の健康、災難消除を祈念する祝詞を奏し、夕焼けの神域に琴と龍笛の清々しい音色が流れ豊栄舞を奉納。夏恒例の大神事は滞りなく終了した。

すべての神事終了後、参列者は魔除けとされる茅（ちがや）と、当大社夏越祭御幣を持ち帰路についた。

神具・装束
結婚式場用品
株式会社 井筒
福岡店　福岡市博多区東公園二－三－(〒812)
電話 福岡(九二)六五二－九四五六番
本店　京都市下京区油小路六条北入(〒600)
電話 京都(〇七五)三四一－三三四一代－四番

「御礼」

当大社恒例の夏越祭神事斎行に当たりましては、宗像市郡内氏子各位並びに全国崇敬者の皆様より、多数の人形をお寄せ戴き、お蔭を以ちまして、祭典も盛大裡に斎行致すことが出来ました。

ここに謹んで御礼申し上げます。

平成六年盛夏

宗像大社
宮司　養父　守

崇敬者各位

奉納袋配布並に取纏め御礼

平成六年度、宗像大社夏越大祓式斎行にあたり、市郡氏子各位への奉納袋配布並に取纏めにつきましては猛暑の中御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。

祭典は例年にもまして盛大厳粛に斎行致すことが出来ました。

茲に謹んで紙面を以ち感謝の意を表します。

平成六年八月吉日

宗像大社
宮司　養父　守
宗像大社氏子会
会長　出光太蔵

宗像大社
氏子会評議員
〃　総代　各位

残暑御見舞申し上げます

博多の味
味噌せんべい
博多の四季　本舗
有限会社　梅月堂
〒812　福岡市博多区古門戸町1－11
TEL 092－291－2966

夢みる力、満ちて。伝えたい。時代へ、人へ。
コミュニケーションのお手伝い。
編集・出版・ビデオ・
マーケティング・CI提案…etc。
わたしたちは人から人へ、
メッセージを伝える
コミュニケーションのお手伝いをします。
SHUKOSHA PRINTING
秀巧社印刷株式会社
■営業部
福岡市中央区渡辺通り5丁目14－9 〒810
TEL (092)712-7711 FAX (092)714-1017

第三十九回 中津宮七夕揮毫会

宗像大社中津宮恒例の七夕揮毫会（主催＝宗像大社中津宮・大島村教育委員会）が、七月二十七日（水）大島小・中学校の二会場にて開催された。

今回で三十九回を数えるこの揮毫会は、書道塾や学校などで常日頃より書道の練習を重ねている子供達にとって、その成果を発揮する場であると共に、自然に溢れたここ筑前大島に於て親子の触れ合いを重ね、夏休みの楽しい一刻を過ごす絶好の機会でもある。

今年もこの揮毫会に宗像郡市はもとより、八女、鳥栖、福岡市等県内外各地より幼稚園児、小・中学生三百五十余名が参加、幼稚園「イヌ」、小学校一年「うし」、二年「あまの川」、三年「雨やどり」、四年「美しい森」、五年「白雲連山」、六年「強い筆勢」、中学校一年「天神伝説」、二年「平安建都」、三年「博物館誘致」の各課題に、参加者は精魂を傾け真剣に浄書していた。

揮毫会場で子供達が浄書している間、会場の外では引率の母親や塾の先生達が心配そうに見守っていたが、その表情は期待と不安が入り混じった複雑な心境のようであった。

浄書を終えた作品は早速中津宮社務所の受付に提出され、全作品が揃ったところで中津宮の神前に奉献され、審査員の城戸筑山先生、船越白鶴先生参列のもと、参加者一同の書道上達と健康とを祈念してお祓いがなされた。作品のお祓いがすむと、ただちに福岡書道会城戸筑山先生、同船越白鶴先生、同荒牧菁峰先生の三名の審査員により審査が行われ、福岡県知事賞以下各賞が次々と選定された。

一方審査の間、中津宮照海殿脇の海辺で、子供達の海水浴を兼ねて、これも恒例の「サザエ拾い」が行われた。先程までは半紙と真剣にらめっこしていた子供達も、張詰めた雰囲気から解放され、無邪気な表情で水とたわむれ、用意した六十キロのサザエが撒かれ準備が整うと、合図と共に一斉に海へ飛び込み、水しぶきを上げながら「サザエ拾い」に興じていた。

午後三時には審査を終了、各賞が決定するとただちに神門脇廻廊に掲示されると共に表彰式へ移り、主催者挨拶、城戸先生の審査講評に続き、入賞者へ賞状とトロフィーや賞品が手渡された。

こうして午後四時前には今年の揮毫会も無事盛会裡に終了、参加した親子達は大島での一日を心ゆくまで楽しみ、帰路のフェリーは家路に急ぐ人々で溢れた。

尚各賞の入賞者は左記の通りです（金賞以下省略）

【福岡県知事賞】
力丸　純子（玄海東小6）
牛島　由美（八女南中3）

【福岡県議会議長賞】
河島　佑香（北山小5）
福薗　瑠巳（津屋崎中2）

【福岡県教育委員会賞】
江崎　友香（長峰小3）
橋爪　里佳（福島中1）

【宗像大社宮司賞】
永野　樹（旭小1）
牛島亜紀子（光友中2）

【宗像市長賞】
永野　希（旭小4）
田代さおり（八女南中1）

【宗像郡町村会長賞】
橋爪　利枝（長峰小2）
岡崎　敦子（八女西中2）

【宗像郡町村議会議長会長賞】
高木　智子（旭小5）
牛島　暢子（八女南中3）

【大島村長賞】
的場　裕子（神興小6）
中山　美穂（八女南中1）

【大島村教育委員会賞】
湯川　裕史（福間南小3）
和田恵津子（城山中2）

【福岡書道会賞】
堀川　史斗（山田小1）
大石　苔莉（旭小2）
白木　澄歌（南郷小3）
松田　直也（矢留小3）
浦本　陽子（舞松原小4）
平川　裕子（旭小5）
坂田　直之（上妻小5）
牛島　里美（上妻小6）
宮川奈緒美（城山中2）

【尚文堂賞】
もちまるありさ（北山幼）
牧口こう一（忠見小1）
奥村　朋子（雙葉小2）
牛島　大志（光友小2）
鍋山　美紀（吉武小3）
畑島　由佳（旭小3）
大石　有華（旭小3）
吉川　有沙（旭小4）
中西　清香（舞松原小4）
宇都宮信幸（玄海小5）
高山未樹子（光友小5）
牧口　隼人（忠見小5）
豊増美奈子（旭小6）
牛島　大作（光友小6）
宮川　望（城山中1）

【ヒロカネ賞】
荻野　ユミ（岡垣幼）
なべやまあけみ（吉武小1）
的場　友宏（神興小2）
緒方　智博（旭小2）
江崎　綾香（南郷小3）
横尾　裕一（旭小3）
金丸　真弥（福島小3）
船津　文世（吉武小4）
高山　泰輔（光友小4）
福田　丞子（玄海小5）
力丸　弘一（玄海東小5）
井上　大輔（上妻小5）
阿部なおみ（玄海小6）
鈴木理恵子（青葉小6）
氏家　宰（自由ケ丘中2）

以上

平成六年度 宗社会総会開催

去る七月二十二日、宗社会総会が当大社に於て開催された。

宗社会は福岡県官国幣社九社の社務打合せ会として発足し、終戦後の昭和二十一年に名称も九社会と称した。昭和三十三年に、宗社会と改め、会員相互の親睦を図ることを目的として、各社が事務局を輪番で行っている。

当日午前十一時各社の会員四〇名が宗像大社に集合し、正式参拝を行い、来年度当番社英彦山神宮高千穂宮司が代表して玉串拝礼を行った。

参拝終了後、本殿横にて記念撮影を行い、総会々場を魚屋に移した。

定刻十二時会議が始まり、神宮並呈居遙拝、国歌斉唱敬神生活の綱領の唱和と続き、当番社である当社養父宮司の挨拶の後、早速議事に入った。

まず、前当番社である香椎宮より、平成六年度の宗社会々務報告がなされ、次に互助会当番社の住吉神社から会計報告が行われ一同了承。引続き当番社から六月十四日に開催された事務担当社会の報告を行い、議事を終了。その後、本年度の新会員が各社より紹介され、拍手をもって歓迎された。最後に次期当番社英彦神宮高千穂宮司の挨拶を以って総会は無事終了した。

総会終了後、会場を二階の大広間に移し、懇親会を行い、一同玄海の新鮮な海の幸に舌鼓を打ちながら、和やかな雰囲気の中、会員は一層の親睦を深めた。

第三九八回 宗像大社歌会詠草

中村吾郎選

毎月末日〆切

大島　目原　節子

幼等も声はり上げて離任する医師を送りぬ島の波止場に

（評）何かの理由で離任し去る島の医師。それを見送る幼らの姿が純粋に目に映る。過不足の無い佳作。

自由ケ丘　細川　絹子

夏草に狭められたる道の辺を汗たりながら清掃奉仕す

（評）作者は奉仕の仕事を厭がってはいない。巧みな表現とはいい難いが素直に詠まれたので好感が持てる。

福　間　池浦千鶴子

俎の音を抑へて菜をきざむ泊れる客の二人ほどあり

（評）賞まさぬよう、泊り客二人を気遣う心。その事を『俎の音を抑へて』が物語る。『ほど』の語もよい。

田　熊　鷲頭かつ代

葉を閉ぢて眠りにつくか夕ぐれを合歓の花がほのかに匂ふ

自由ケ丘　津江冨美子

水田は一面靄につつまれぬおぼろに見えて農夫らうごく

福　間　山田よし子

大橋の下の公園を埋めつくすアカパンサスは淡き藤色

福　間　本松　宣子

子か親か賽銭箱の上の蛙目玉ぎょろりと喉ふくらます

大　島　河野　英子

涯しなく沖に横たふ黒潮の青き輝き御嶽に望む

津屋崎　佐々木和彦

さみどりに流るる釣川に沿ひゆけばラジオは渇水対策を告ぐ

武　丸　中村さつき

霧こめて静けき朝の海面をよぎりゆく漁舟一つおぼろに

土　穴　瀧口　敦子

白鷺の大きく羽を拡げては山峡を北へ悠々と飛ぶ

大　島　目原　節子

桜島離るる船の速度増し水脈は夕陽に煌めきてをり

大　島　越智　治子

古き和歌口ずさみつつ茅の輪くぐりひたすらにして神に祈りぬ

赤間ケ丘　松本　澄子

庭隅のどくだみの花に白き蝶しばしまつはる木洩日のなか

原　町　八波　五月

道はさみ駐在所あり休日を赤タオル持ちて棟上げの警備

名古屋　小田　喜一

蝮出る峡の棚田を恐れつつ田の草取りしは五十年前

名古屋　小田　留子

朝火事の通りをさけて裏道を運転荒くマイカー走る

福　間　堀川さかみ

打ち返す波の末尾はきらきらと宝石に似て消え去りてゆく

福　間　二宮　末子

若杉の山より流るる水澄みて恵みの故郷の水車休めり

徳　重　石松や寿子

柿の木の根方に生えし白紫蘇を残してしばし醜草を取る

吉　留　白木うめの

ゲームする老人の群きびきびと動きて空は抜けさうな青

赤間ケ丘　中武　アサ

裏表隣家の布団たたく音梅雨の晴れ間の午後の日強し

日の里　後藤　君代

枯草に放ちたる火はとどろきて渦巻き乍ら野を走りゆく

城南ケ丘　中間日出子

漸くに心にかかる靄はれて風さわやかに体もかろし

鐘　崎　安永　久子

兄の死の未だ実感のわかぬまま故里の墓所へわが足はむく

残暑御見舞申し上げます

みなとタクシー株式会社
代表取締役　古野　浩
宗像市大字土穴三九八－十一
TEL　〇九四〇－三三三－一三三一

新星交通有限会社
代表　森　義久
宗像市大字東郷
東郷営業所　〇九四〇－三六－二一三八

宗像西鉄タクシー株式会社
代表取締役社長　大里輝親
支配人　花田好幸
宗像市自由ケ丘二－七－三
TEL　〇九四〇－三二－四一三一

宗像グリーンタクシー有限会社
代表取締役　藤瀬政敏
宗像市大字河東字岩ヶ鼻一一二二
TEL　〇九四〇－三三－三三〇三

宗像平和タクシー株式会社
代表取締役　塩川弘昭
宗像郡福間町二七二八－一三
TEL　〇九四〇－四二－〇〇四〇

福栄タクシー有限会社
代表取締役会長　保井　久
代表取締役社長　保井　享
宗像郡福間町字東の前二六三三－八
TEL　〇九四〇－四二－〇三七三

大島の夏便り

中津宮心字池を清掃

当宮境内の入口で、参拝者の心を和めるかのように鯉が泳ぐ心字池の清掃が、七月十七日（日）、沖中両宮翼賛会、大島村青年団により行われた。

当日早朝集合した翼賛会員、青年団員は、早速池の中へ入り、先ず鯉や鮒をつかまえ「天の川」に設置された簡易水槽へ移した。続いて水を抜き、池底のヘドロを取り除いた後、消防ホースにより消毒を兼ねて海水で洗浄、さらに水苔を落し再度海水洗浄すると、昨年修復したばかりの心字池は、みるみるうちに奇麗になっていった。

午前中で池清掃を終えると、早速「天の川」の真清水をポンプアップして水を張り、午後には鯉を池に戻し、心字池の清掃作業を終了した。

連日の猛暑で酸欠気味の状態だった鯉も、池の水が変わり気持ちよさそうに元気に泳ぎまわっていた。

尚、当日御奉仕いただきました翼賛会、青年団各位並びに御協力いただきました大島村消防団、大島漁業協同組合に紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。

祇園祭と山笠行事

連日の猛暑を吹き飛ばし、悪疫退散・災難消除を願う祇園祭並びに山笠行事が、ここ筑前大島でも、旧暦十六日に当る七月二十四日（日）に斎行された。

前日二十三日には、山笠保存会により大人山二台と子供山二台の人形も飾り付けられ、島内は山笠ムードに包まれた。山笠当日の二十四日、真夏の日差しが容赦なく照りつける中、午後二時末社須賀神社の神前に於て祇園祭を斎行。目原奉賛会長、船越山笠保存会長、杉田村長を始め大人から子供達まで法被姿で参列、島内の悪疫退散・災難消除が祈念された。

祭典終了後、中津宮正面参道階下に安置された、大人山笠と子供山笠が祓清められ、いよいよ勇壮な山舁が始まった。当宮前を出発した山笠は先ず今西区へ進み、同所を折り返して島内メインストリートを宮崎区へと進行、同所にて折り返した後谷区方面へと、沿道の村民の激励と力水を浴びながら、堂の前区の子供広場まで巡幸、島内をオッショイ、オッショイの掛声が駆け巡った。

子供広場に山笠が安置されると、島内有志で構成する「筑前大島　御生太鼓」が小学生の演奏も加えて披露され、最後に全員で「祝い目出度」を合唱して本年の山笠行事も無事終了した。

山笠当日は夏休み最初の日曜日とあって観光客も多く、更に村民は稼業止めで参加、島内は暑さもどこへやら、終日活気に溢れていた。

最後に山笠復興以来、永年に亘り山笠保存会長として御尽力いただき、本年勇退されました福原鶴夫前会長に、心から感謝申し上げます。

七夕祭斎行

筑前大島恒例の七夕祭が八月七日（日）斎行され、島内外の人々が夏の一夜を楽しんだ。

七夕祭は、当宮境内を流れる清流「天の川」を挟んで鎮座する織女社と牽牛社の神前に於て、一年に一度の逢瀬を楽しむ祭りとして斎行される。

折紙、短冊、風船等で装飾された境内の一角、織女社を拝する「天の川」沿いに、芝垣に囲まれた棚機の祭壇が設けられ、神前には神饌と共に村内氏子の願いが込められた祈願書が供えられて午後八時、目原奉賛会長、河野宗像郡市神社総代会長、杉田村長を始め浴衣姿の老若男女多数が参列する中祭典を開始。修祓、祝詞奏上に続いて、玉串奉奠を行い各代表、子供達が敬虔な祈りを捧げた。

祭典終了後、七夕踊「夕浪千鳥」を、本年の宗像地区芸能フェスティバルの折り披露した村内婦人有志が正装で奉納、続いてその輪にチビッ子から大人迄加わり、七夕踊、炭坑節外数曲を奉納、大いに盛り上がった。

七夕踊りの奉納に続いて、大島村青年団（団長＝福崎順治）奉仕により、金魚すくい、ヨーヨー釣りなども行われ、子供達がさかんに興じていた。

かくして筑前大島の夏の一夜は、夜の更ける迄大いに賑わった。

神郡の夏祭り

山笠の競演

今年の猛暑は近年にない異常と伝へる気候である。昨年の夏は冷夏で海岸は淋しかった。今年は海上にウインドサーフィンの帆が走り、砂浜にビーチパラソルの花ざかりで、神郡浦々の浜辺は賑わっている。

猛暑の中、夏の祇園祭り準備が各地で進められている。九州とくに、北部地方は祇園祭りで賑う有名地が多い。博多の山笠・小倉祇園に戸畑提灯山・若松祇園と七月中は祇園ばやしが夜空に響く土地柄である。

秋の豊作を祈り、この猛暑を健やかに過ごせます様にと祈る"夏まつり"は、人々が楽しみにしている神事である。

神郡宗像も各市町村で、山笠賑いが古くから行われている。玄海町神湊上中組、段天区に於ても六月下旬より山笠の台おろし、棒洗いなど行われた。

七月に入り、山笠に人形の飾り付け、〆縄おろしといった神事が行われた。

飾り方には地方地区により独特の人情味があり、表飾り、裏飾りが年毎にある。

宗像地方は、古くより、地方色豊かな郷土人形で有名な津屋崎人形が飾り付けられる。今年は「大坂夏の陣」や楠正行四篠畷の戦いなどの武者人形が飾り付けられ、七月三日から始まった山笠流れかきの主役をなし、十七日迄、町内をシメコミ姿にハチマキ、ハッピ姿の若者等が、カケ声も勇ましく力水の中を走りぬけていた。

この様に祭りに明けくれた北部九州の夏も終り、豊作を祈り待つ秋へと風もすずしく初秋を迎へる。

社務日誌抄

七月一日　月次祭
大和ハウス工業㈱九州工場安全衛生協議会二〇名参拝
九州電力㈱飯塚電力所所長今村光良氏他十二名参拝
福岡県トラック協会東筑分会々長溝口健二氏他二十六名参拝
七月四日　浄土宗婦人会一行三〇名参拝
七月五日　鶴岡八幡宮祢宜村上勝丸氏他四名参拝
㈱九電工空調管技術部長夏秋幸陽氏他三名来社
西日本銀行日の里支店長河波良智氏転勤挨拶
並中牟田嘉彦氏同支店長新任挨拶の件にて来社
七月七日　玄海町老人クラブ百名清掃奉仕
JR西日本博多総合車輌所九名参拝
㈱九電工松尾氏転任挨拶の件にて来社
七月八日　福岡県文化課児玉氏他一名中津宮本殿修理の件にて来社
七月九日　宗像歴史探訪一行五〇名来社
七月十日　宗像大社菊花会運営理事会
七月十二日　大和海運㈱常務取締役三浦照輝氏並宗像海運㈱取締役営業部長牧田直巳氏参拝
七月十三日　東京都杉並区神職会十五名参拝
七月十四日　出光興産㈱仙台支店参拝
七月十五日　月次祭・祇園祭
七月十六日　神道大成教愛媛多賀協会教師須田廣美氏他十七名参拝
出光興産㈱千葉製油所製油一課プラントスーパーバイザー粕川幸夫氏他二名参拝
日本文華アカデミー一行二十五名来社神宝館拝観
七月十七日　宗像護国神社戦没者慰霊祭千灯明打合せ会
出光興産㈱日立油槽所岩崎所長並東京光運会永戸支部五名参拝
鞍手郡若宮中学校野球部十八名参拝必勝祈願祭斎行
明治神宮総務部長中島精太郎氏来社
七月十八日　宗像警察署柔剣道二〇名参拝必勝祈願祭斎行
七月十九日　玄海中学校剣道部参拝必勝祈願祭斎行
七月二十日　玄海中学校野球部二〇名参拝必勝祈願
七月二十一日　大祓式・夏越祭
地元総代並協力会大祓式・夏越祭諸準備奉仕
七月二十二日　宗社会総会於魚屋
宗像警察署々長大野正昭氏転任挨拶の件にて来社
宗像ロータリークラブガバナー参拝
七月二十六日　出光興産㈱福岡支店総務課長市塚順氏他四名献茶祭道具点検の件にて来社
七月二十七日　出光興産㈱新潟支店販売課長許斐史郎氏、出光販売店北澤商事㈱取締役営業部長野崎勝蔵氏参拝
太宰府天満宮小鳥居権宮司他二名並神務実習生参拝
七月二十八日　香椎税務署二十名管内研修の件にて来社
NHK文化センター三〇名来社神宝館拝観
アカギソフトウエア社長赤木國夫氏コンピューターの件にて来社
七月二十九日　出光興産㈱高松支店販売企画課高岩正秀氏、静岡支店販売課長深田恒夫氏他二名、松本支店販売課長見満康有氏他一名、大宮支店販売企画課松本光裕氏他二名参拝
宗像警察署々長池田博之氏着任挨拶の為来社
千葉県流山市諏訪神社祢宜古谷和史氏参拝
七月三十一日　大祓式・夏越祭
地元総代並協力会大祓式・夏越祭諸準備奉仕

残暑御見舞申し上げます

美松タクシー有限会社
代表取締役　塩川弘昭
宗像郡津屋崎町大字津屋崎新川端
TEL　〇九四〇－五二－〇〇一五

大和印刷
代表取締役　的場重徳
宗像市大字田熊五二六－二
TEL　〇九四〇－三六－二〇二七

総合建設業
株式会社　弘江組
取締役会長　中野弘愛
代表取締役　花田和彦
福岡県宗像市大字稲元一〇二五
TEL　〇九四〇－三二－二五六七・三三－三九八

総合結婚式場
のがみ
プレジデントホール宗像
取締役社長　野上幸敏
宗像市大字土穴四六六－一
TEL　〇九四〇－三二－一一三五五

宗像グリーン株式会社
代表取締役　瀧口潤一郎
福岡県宗像市大字稲元九〇五
TEL　〇九四〇－三三－二二七一

ハナダ写真館
代表者　山下孝男
福岡県宗像市大字東郷一〇三一
TEL　〇九四〇－三六－二〇〇九(代)

宗像大社歌会 俳句作品集（三七七）

ひかりケ丘　南　萬里
貝の夢泡ひとつぶの十三夜

若　松　髙橋　忠實
連あって蝶々ひらひら花に舞ふ

福岡中央　力丸　玄風
久闊の涼しき言葉飾らずに

自由ヶ丘　細川　絹子
遠蛙過去の勇士は年老ゆる

津屋崎　井浦　良介
日照り続く弓型となる島国

藤　沢　井上　玄洋
裏街の奥を彩る白木槿

日の里　花田いつ枝
夏浜や反り身に築く砂の城

福　岡　三宮　末子
夏草も枯れる日照りや蝉時雨れ

福　岡　森　清
梅雨晴に舞ふ鳶の羽見ゆるかな

若　松　井手　清隆
凪ぎわたる灘の入日や浜万年青

（続）海の寄物

いしいただし　89

暑い、とにかく暑い、暑いだけでなく雨が降らない。昨年の夏は冷夏で、しかも雨が多かった。その逆が今年である。連日三十度以上の猛暑が続いた。

「このような異常な天候は今後続くのではないでしょうか」とは先日会った九大名誉教授の安東毅先生が言われていた。たしかに地球はおかしくなりつつある。

七月末に沖縄へ行った。漂着物の展示と、海岸で子供達に漂着物採集の指導のためである。

今は平和な座間味港

那覇空港に着いた時には猛烈な雨だった。十二号台風の影響とか、空港まで出迎えの田崎聡氏は「今年の沖縄は例年になく雨が多く、水不足の心配はありません」とのことであった。沖縄は毎年水不足だったのに…。

雨つづきで波之上公園に予定されていたイベントは変更されて那覇伝統工芸館「海の漂着物展」と「流木コンサート」が行われることになった。会場変更と豪雨で見学者は少なかった。展示の方は私のコレクションの一部と、田崎氏と沖縄在住の人達によって集められたものとがうまく、網をバックに配して、工夫された展示になっていたし、一つ一つにはきちんと解説もされていた。沖縄本島に漂着した丸木船を支える腕木の浮きも展示されていたのが目についた。長さ約一七〇センチ、幅三〇センチ、ラワン材を浅くくり抜いてある。発見されるまでにかなり期間が経過したようでいたみや船貫虫が付着している。流木も会場の中央あたりに置かれていた。玄界の流木のようなダイナミックなものは少なかったが、漂着物展示には流木があれば安定感があってよく、欠かせないような気がする。

流木コンサートも、漂着した流木を使って予定されていたが、これも雨のため中止、代りにアフリカの打楽器の奏者であるカクラロビ氏がこられていた。楽器の名前は知らないが、一メートル二〇センチほどの木琴状になって、その下に瓠が並べられている。

音色に幅があり、野性的な太鼓のような響きと、また反対に繊細な音色までを出す。あるときは強く、ある時は優しく、単純ではあるが飽きることがない。途中、カクラロビ氏の息子カクラロビ・ジュニアも参加しての合奏。二時間があっという間に過ぎた。

夜は郷土料理店の琉球浪慢座へ。ここでもカクラロビ氏の演奏と、今人気の沖縄出身のネーネーズが来ていて、店は溢れんばかりの賑わいであった。泡盛、蛇皮線、そして島唄と、南国の夜は果てしなく陽気で楽しい。

翌日は慶良間諸島にある座間味島でのビーチコーミングである。慶良間諸島は那覇市の西方約三〇キロの海上にあり、渡嘉敷島、阿嘉島、慶留間島、座間味島等大小二十数島よりなっている。

那覇泊港から出航するが第一便は風が強い為に欠航。第二便は十時半に船が出るということで、これに乗ることになった。第一便が欠航するほどで海は荒れているようなので、用心のため船酔止め薬を飲んだが、海の荒れ具合はたいしたことはなかった。

慶良間諸島までは二時間ほどである。大小の島の横を通り過ぎていく。景色はあまり南国的な感じはしないが、海の色は違う。蒼い色と島の周囲はコバルトブルーである。琉球ガラスで造った泡盛の容器に、この色と同じものがあったのを思い出した。

今は平和な慶良間諸島であるが、四九年前の沖縄戦では、まずはこの諸島から米軍は攻撃、上陸をはじめている。昭和二十年三月二六日、阿嘉島を攻撃、慶留間、座間味、渡嘉敷と戦闘が展開し、その間、集団自決、日本軍の島民虐殺等が行われている。沖縄本島は北谷海岸上陸が四月一日、それから三ヶ月、本島の最南端摩文仁丘での牛島満司令官長勇参謀の自決で、沖縄戦の組織的な戦闘は終わったのである。いま座間味には平和塔が、渡嘉敷に白玉の塔の碑が建っている。

やがて船は座間味港に着く、港の周辺に民宿や観光土産物店があり、後方に民家がある。海岸にはアダンが赤い果実をつけ、ココヤシにはたった一個だが青い実をつけていた。

座間味浜にココヤシー本

宗像むかしばなし
豊後の宗像家と「うわつぶみ」

今から百五十年ほど前、豊後の大友家と筑前の宗像家とは、親密な関係があった。

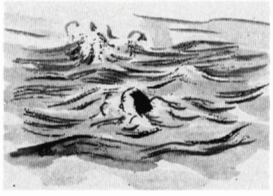
黒田如水と戦った石垣原で、大友義統の副将としてはなばなしい武勲をたて、壮烈なる戦死を遂げた宗像掃部の事蹟は歴史上の有名な美談となっている。この宗像氏が豊後に移り大友氏の幕下として活動した事実がある。

大分県大野郡大飼町の奥に宗像と称する小字がある。この地は、代々宗像氏が大友氏から所領を受けて居城した土地である。大友氏の先祖、大友能直は、建久七年正月、豊後豊前の守護職として、源頼朝の命を受け、鎌倉を発して豊後に下向し、居城を今の大分に設けたが、其次男大友右衛門次郎氏能は宗像大宮司氏国（第四十代）に養われ、其後しばらく宗像大社の社務に任ぜられた関係から、北九州の雄族、宗像氏と大友屋形とは深い縁が結ばれていた。

大友能直は非常に神仏に信仰が厚く遂に宗像氏の一族を招き、神に関する一切を司さどらしめ、代々子孫連綿として宗像掃部の世まで続き遂に石垣原で戦死を遂げ、その子孫は尚昔の領地犬飼の宗像に隠棲し近郷の崇敬を受け幾代か続いて来たが、その家につたわる宝物の中に「上記」と称する書物があった。伝に依ると、大友能直が、我が国の歴史を研究し、日本の歴史の古事記日本書紀に誤りがあったとして、古来より伝わる日本の創業の伝説を上古文字に書き「上記」と題して、代々家宝として伝えていったが、この内容が皇室の記録とは非常に相違があるため、外部に対しては絶対の秘密を保ち、宗像家に秘蔵していたということである。

世は徳川時代になり文政年間、突然大洪水がおこり、大野川一帯をおそい深夜眼をさました時はすでに宗像家は大洪水に捲込まれていた。家財を運び出す事はもう出来ない、かろうじて宗像家代々の家宝である「うわつぶみ」を主人が肌につけ帯で体に締め上げて洪々と流れる濁流を泳ぎ出した。しかし大洪水の急流を泳ぎ切ることは出来なかった。それから流れ流れて四里の下流松岡村に漂着した時はすでに主人の命はなくなり、その体にはしっかりと「うわつぶみ」が結ばれていた。その時、近所の里人がこの死体をみつけ村人に知らせた。色々と調査の結果、四里上流の宗像氏であることがわかり、その身につけていた「うわつぶみ」を乾かして再び無事宗像家に戻す事が出来た。

その後長い間保存されていたが、明治七年吉良某という学者がいろいろつぎ合せ、数年の間苦心を重ねて漸く読めるように註釈を作りながら研究を行っていた。そのうちに時の大分県知事森下景端がこのことを知り、その一部を写させ宮内省に献じ、色々と話題をまいたそうである。しかし或は偽書の説も出て色々と論議をおこしたそうだが現在はどの様になっているか明確ではない。しかし宗像氏は現在も尚血縁の人が現存され、古き由緒のある家として近所の尊敬をうけているそうです。



残暑御見舞申し上げます

宗像大社神酒
楢の露
勝屋酒造合名会社
社長　山本博次
宗像市大字赤間九五七

神酒　宗像
宗像大社神酒
神酒宗像
福岡県宗像市大字武丸一〇六〇
合資会社　伊豆本店
伊豆善也

日本紙工株式会社
九州事業部
事業部長　武藤山治
福岡市博多区吉塚三丁目七番十三号
TEL　〇九二―六一一―三九三五

SHIROYAMA
暮らしの夢を大きくひらく
城山家具
代表取締役社長　寺田修
宗像市大字三郎丸五一九―一
TEL　〇九四〇―三三―五五三八

鮮魚仲買　有限
卸・小売業　会社　やまえ水産
代表者　安部實
宗像郡玄海町神湊
TEL　〇九四〇―六二―〇〇〇六

SANCS
株式会社　サンクス
代表取締役　藤井俊孝
宗像市東郷一〇九一―一三
TEL　〇九四〇―三七―二一五〇